

第7次青森県保健医療計画の評価（ へき地医療対策 ）

指標 番号	項目	SP0	指標名	現在値の 出典	策定時 (時点)	現状値 (時点)	目標値	評価	第7次計画における 取組及び成果	第8次計画における現状と課題
1	へき地医療を支える総合診療、プライマリ・ケアを実施する医療従事者の確保	P	総合診療専門医の専攻医数	県医療薬務課調べ	0人 (H28年度)	7名 (R4.4.1時点)	増加 (R4年度)	目標達成	○県内の総合診療専門研修プログラムで、H30年3名、H31年3名、R2年6名、R3年6名、R4年7名の専攻医数が研修を実施した。	○総合診療専攻医は増加しているものの、専門医取得後のへき地を含めたキャリアパスの道筋をつくると共に、へき地で勤務する総合診療専門医の指導・支援体制を構築する必要がある。
2		P	弘前大学地域医療早期体験実習参加者数	県医療薬務課調べ	6名 (H28年度)	2名 (R4年度)	増加 (R4年度)	悪化	○へき地医療への動機付けとして、へき地医療を担う医療機関を含む地域医療体験実習を実施し、R4年度までに延べ14名が参加した。	○将来、へき地医療を担う医師の動機付け支援のため、関係機関と連携しながら、医学生がへき地医療を体験する機会を確保する必要があるが、実習受入医療機関が減少している。
3		P	県外大学医学生のへき地医療実習受入数	県医療薬務課調べ	3名 (H28年度)	4名 (R4年度)	増加 (R4年度)	目標達成	○へき地医療への動機付けとして、へき地医療を担う医療機関を含む地域医療体験実習を実施し、R4年度までに延べ11名が参加した。	
4		P	無医地区等における保健活動延べ日数	県医療薬務課調べ	274日 (H28年度)	413日 (R4年度)	現状維持	目標達成	○市町村において健康教室や家庭訪問等の保健師による保健活動を行い、へき地住民への保健指導を提供した。	○へき地住民の健康維持・増進のため、市町村においては、今後も保健活動を継続して実施する必要がある。
5	へき地医療に従事する医療従事者が安心して勤務・生活できるキャリア形成支援	P	弘前大学医師修学資金特別枠貸与者の町村部医療機関勤務延べ人数	県医療薬務課調べ	6名 (H28年度まで)	15名 (R5.5.1まで)	増加	目標達成	○弘前大学医学部医学科入学者のうち、5名以内の者を特別枠貸与者として修学資金を貸付した。卒業後はへき地医療拠点病院を含む町村部医療機関に勤務することで、へき地等の地域医療を支えている。	○今後もへき地医療を確保するため、関係機関と連携しながら、へき地医療に従事する医師が安心して勤務・生活できるよう、町村部で勤務する特別枠貸与者のキャリア形成を支援する必要がある。

指標 番号	項目	SP0	指標名	現在値の 出典	策定時 (時点)	現状値 (時点)	目標値	評価	第7次計画における 取組及び成果	第8次計画における現状と課題
6	へき地医療 拠点病院か らの代診医 派遣等の機 能強化	P	へき地医療 拠点病院か らの医師派 遣日数	県医療薬 務課調べ	46日 (H28年度)	119日 (R4年度)	増加	目標達成	○へき地医療拠点病院からへき地診療所に医師 を派遣し、無医地区等の診療支援を実施した。 ○R2年度から新たに青森県立中央病院が医師派 遣を実施し、診療支援体制を強化した。	○今後もへき地の医療提供体制を確保するた め、へき地医療拠点病院においては、関係機関 と連携しながら、医師派遣を含む主要3事業を 実施していくことが必要である。
7		P	へき地医療 拠点病院か らの代診医 派遣日数	県医療薬 務課調べ	12日 (H28年度)	9日 (R4年度)	増加	悪化	○へき地診療所からの要請に応じて、研修、休 暇等で医師が不在となる際に代診医を派遣し、 医療提供体制を維持した。 ○コロナの影響により学会等がオンライン化し たことにより実績減。	
8		P	主要3事業 (巡回診 療、医師派 遣、代診医 派遣)の年 間実績が合 算で12回以 上の医療機 関の割合	県医療薬 務課調べ	66.7% (R元年度)	71.4% (R4年度)	100%	目標に達 成しない が改善	○R4年度は、へき地医療拠点病院7か所のうち、 5か所が主要3事業のいずれかを年12回以上実施 し、へき地の医療提供体制を維持した。 ○R4年度に、直近3年間で主要3事業の実績が なく、今後も実施見込みがないへき地医療拠点 病院の指定を取り消した。	○今後もへき地の医療提供体制を確保するた め、へき地医療拠点病院においては、関係機関 と連携しながら、主要3事業を実施していくこ とが必要である。 ○主要3事業の年間実績が合算で年12回に満た ないへき地医療拠点病院（むつ総合病院）に対 しては取組が向上するよう働きかける。
9		P	必須事業 (上記主要 3事業及び 遠隔医療に よる支援) の実施回数 が年間1回 以上の医療 機関の割合	県医療薬 務課調べ	83.3% (R元年度)	71.4% (R4年度)	100%	悪化	○R4年度は、へき地医療拠点病院7か所のうち、 5か所が必須事業のいずれかを年1回以上実施 し、へき地の医療提供体制を維持した。 ○R4年度に、直近3年間で主要3事業の実績が なく、今後も実施見込みがないへき地医療拠点 病院の指定を取り消した。	○今後もへき地の医療提供体制を確保するた め、へき地医療拠点病院においては、関係機関 と連携しながら、必須事業を実施していくこ とが必要である。 ○必須事業の実施できていないへき地医療拠点 病院（むつ総合病院）に対しては取組が向上す るよう働きかける。

第 7 次計画の中間見直しの概要

項目	へき地医療拠点病院の指定
概要	青森県立中央病院を新たにへき地医療拠点病院に指定した。
理由	へき地診療所への医師派遣等を実施予定であったことから、へき地医療拠点病院に指定した。

項目	へき地医療拠点病院の指標
概要	主要 3 事業（巡回診療、医師派遣、代診医派遣）の年間実績が合算で 1 2 回以上の医療機関の割合を目標に追加し、目標値を 1 0 0 %とした。
理由	良質かつ適切なへき地医療を提供する体制を構築するため、国の指針に基づき指標に追加した。

項目	へき地医療拠点病院の指標
概要	必須事業（上記主要 3 事業及び遠隔医療による支援）の実施回数が年間 1 回以上の医療機関の割合を指標に追加し、目標値を 1 0 0 %とした。
理由	良質かつ適切なへき地医療を提供する体制を構築するため、国の指針に基づき指標に追加した。